

奈良国立文化財研究所概要



1985

目 次

沿 革 付年表	2
組 織	3
機 構	3
定 員	3
役 職 職 員	4
予 算	4
歳 出 予 算	4
科学研究費補助金	4
施 設	5
土地及び建物	5
事 業	7
建造物研究室	7
歴史研究室	7
平城宮跡発掘調査部	8
飛鳥藤原宮跡発掘調査部	9
飛鳥資料館	10
埋蔵文化財センター	11
普及活動	12
公開講演会	12
現地説明会	12
刊 行 物	12
蔵書及び資料	14

沿 革

奈良国立文化財研究所は、文化財保護委員会（現、文化庁）の附属機関として文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行うことを目的として昭和27年4月奈良市春日野町50番地に設置された。設立の発端は、吉田茂首相が奈良県視察の際、南都諸大寺に伝わる文化遺産のすばらしさを目のあたりにし、これらの文化財を保護宣揚するため、現地における美術学校又は美術研究所設置の構想をもたれたことによるといわれ、当初は、美術工芸研究室、建造物研究室、歴史研究室、庶務室の4室で充足した。

その後、昭和35年10月には平城宮跡発掘調査事務所（現、平城宮跡発掘調査部）、昭和45年4月には飛鳥藤原宮跡調査室（現、飛鳥藤原宮跡発掘調査部）が、さらに昭和48年4月には飛鳥資料館、昭和49年4月には埋蔵文化財センターの設置をみて今日に至っている。

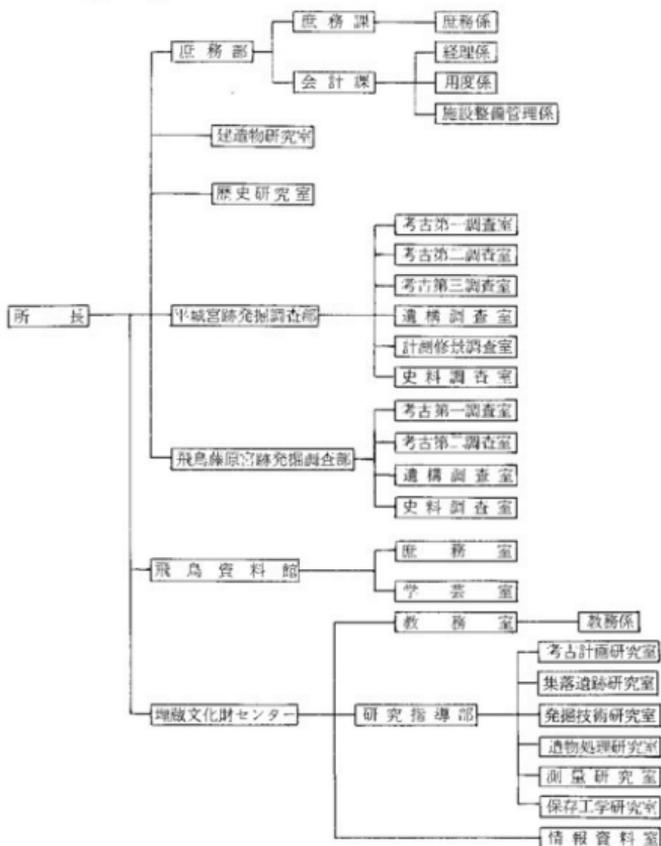
年 表

昭和26.10.6	奈良文化財研究所設置準備規程（文化財保護委員会裁定第11号）により設置準備会充足
27.4.1	文化財保護委員会の附属機関として奈良文化財研究所（庶務室、美術工芸研究室、建造物研究室、歴史研究室）設置
29.7.1	奈良国立文化財研究所と改称
35.10.15	平城宮跡に発掘調査事務所設置
36.9.16	庶務室は庶務課となる。
38.4.10	平城宮跡発掘調査部が設けられる。
39.4.1	同調査部に第一～第三調査室、保存整理室、史料調査室を置く。
40.4.1	同調査部に新たに第四調査室を置く。
43.6.15	文化庁充足、その附属機関となる。
45.4.15	平城宮跡資料館開館
45.4.17	平城宮跡発掘調査部の組織を考古第一～考古第三調査室、遺構調査室、計測修景調査室、史料調査室、飛鳥藤原宮跡調査室と改める。
48.4.12	会計課、飛鳥藤原宮跡発掘調査部（第一調査室、第二調査室）、飛鳥資料館（庶務室、学芸室）設置
49.4.11	庶務部（庶務課、会計課）、埋蔵文化財センター（教務室、考古計画研究室、測量研究室）設置
50.3.15	飛鳥資料館開館。
50.4.2	埋蔵文化財センターに研究指導部設置。同部に遺物処理研究室新設
51.5.10	埋蔵文化財センター研究指導部に集落遺跡研究室新設
52.10.1	埋蔵文化財センター研究指導部に保存工芸研究室新設
53.4.5	飛鳥藤原宮跡発掘調査部の組織を考古第一調査室、考古第二調査室、遺構調査室、史料調査室と改める。
53.10.1	埋蔵文化財センターに情報資料室新設
55.4.5	美術工芸研究室を奈良国立博物館（仏教美術資料研究センター）に移換
55.4.26	庁舎移転（奈良市二条町）、併せて平城宮跡発掘調査部、埋蔵文化財センターを庁舎に統合
58.10.1	埋蔵文化財センター研究指導部に発掘技術研究室新設

組 織

昭和60年4月1日現在

機 構



定 員

区 分	指 定 職	行 政 職 (†)	行 政 職 (□)	研 究 職	計
人 員	1	22	4	66	93

役職職員

所 長		坪 井 清 足						
庶務部	部長 伊藤省三	庶務課	課長 松赤	木村	保野	之一		
建造物研究室		室長 事務	取 長 岡	田	英	男		
歴史研究室		室長	鬼頭	清	明			
平城宮跡 発掘調査部	部長 岡田英男	考古学 調査課	第一課長 田山	第二課長 宮田	第三課長 坂	通夫 尚部 雄宏	善征 忠長 哲二	
飛鳥藤原宮跡 発掘調査部	部長 狩野 久	考古学 調査課	第一課長 佐木	第二課長 村加	第三課長 日猪	治史 一 優	典正 功 大勝	
飛鳥資料館	館事務取扱 坪井清足	庶務課	室長 長	栗岩	谷本	久次 重	夫郎 正敬 啓	
埋蔵文化財 センター	センター長 田中 琢	教務課	室長 長	栗岩	谷本	久次 重	夫郎 正敬 啓	
研究指導部	部長 佐原 真	考古学 調査課	第一課長 松町	第二課長 西沢	第三課長 木安	生蔵 康昭 昭示		

予 算

歳 出 予 算

(単位 千円)

区 分	58 年度	59 年度	60年度(当初)
人件費	455,192	488,670	499,510
運営費	619,821	657,991	671,319
施設費	330,641	310,544	306,170
臨時的経費(臨時職員)	0	588,000	100,000
計	1,405,654	2,045,205	1,576,999

科学研究費補助金

() 書は件数(単位 千円)

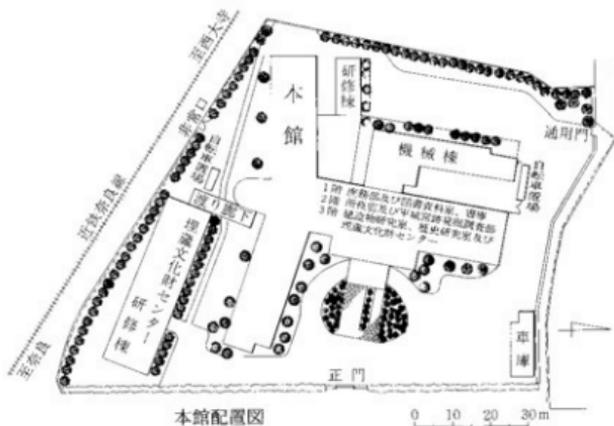
区 分	57 年度	58 年度	59 年度
特定研究 (1)	(1) 19,500		(1) 3,000
総合研究 (A)	(1) 3,300		
一般研究 (A)			(1) 8,300
" (B)	(4) 10,300	(5) 12,000	(5) 10,100
" (C)	(2) 2,400	(3) 2,300	(2) 2,300
奨励研究 (A)	(4) 3,300	(4) 3,200	(3) 2,300
試験研究 (1)	(1) 8,800	(1) 6,400	
" (2)	(1) 2,000		
研究成果刊行費		(1) 3,380	(1) 6,870
計	(4) 49,600	(4) 27,280	(3) 32,870

施設

昭和60年4月1日現在

土地及び建物

名称	土地面積	建物面積		備考
		建面積	延面積	
本館	8,860 m^2	2,792 m^2	6,793 m^2	
平城宮跡	1,044,012	7,811	10,632	土地……文部省所管 建物……平城宮跡資料館、覆屋等
藤原宮跡	276,913	36	36	土地……文部省所管
藤原発掘調査部	6,721	プレハブ 3,034	プレハブ 3,150	民有地借上
飛鳥資料館	17,092	1,465	2,682	
旧末谷家住宅	298	190	213	民有地借上 重要文化財
宿舎	1,654	334	378	土地 231 m^2 大蔵省所管を含む
飛鳥資料館山	1,343	225	225	
郡	311	109	153	
合計	1,355,550	15,662	23,884	

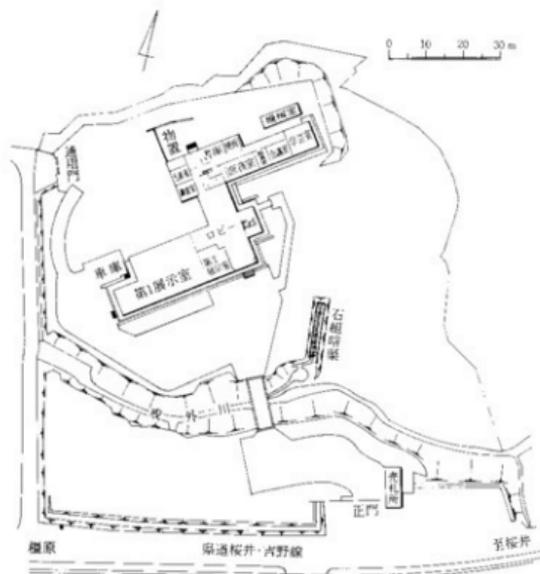




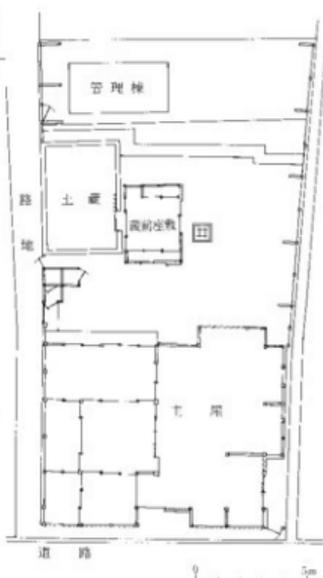
平城宮跡資料館配置図



平城宮跡覆原配置図



飛鳥資料館配置図



旧米谷家住宅配置図

事業

建造物研究室

建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究とその結果の公表を行う。



旧米谷家住宅修理後

建造物の調査

歴史研究室

考古、史跡及び社寺等に伝存する古文書、典籍等歴史資料に関する調査研究とその結果の公表を行う。



古文書等の調査

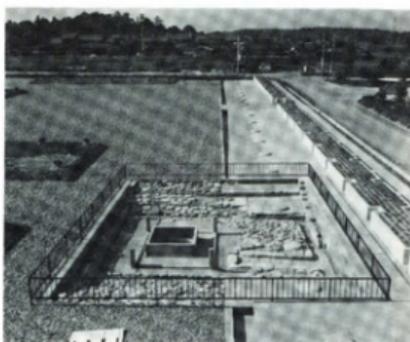
平城宮跡発掘調査部

奈良時代70余年の帝都として栄えた平城宮跡等の発掘、調査研究を行うとともに出土した木器・金属・土器・瓦・木簡・遺構等の保存整理・遺構の計測・修景及びこれらに関する調査研究並びに史料の収集及び調査研究とこれらの結果の公表を行う。

さらに発掘調査済の地域等について、遺構そのものが理解しやすいように修景整備し、あるいは遺構、遺物等を展示して一般に公開している。



平城宮跡全景



発掘された奈良時代の石敷井戸とその復元展示

飛鳥藤原宮跡発掘調査部

日本で初めて律令国家体制が形成され飛鳥文化が開化した時代の中心的地域である藤原宮跡及び飛鳥地域における宮跡その他の遺跡の発掘、調査研究を行うとともに、出土した木器・金属・土器・瓦・木簡・遺構等の保存整理・遺構の計測・修景及びこれらに関する調査研究並びに史料の収集及び調査研究とこれらの結果の公表を行う。



藤原宮跡大極殿周辺



山田寺東回廊建物（北から）

飛鳥資料館

飛鳥地域に関する考古資料、歴史資料、建造物、絵画、彫刻その他の資料を収集保管し、調査研究するとともに、飛鳥地域の歴史的意義及び文化財に関し、一般の理解を深めるためこれらを展示して公衆の観覧に供している。

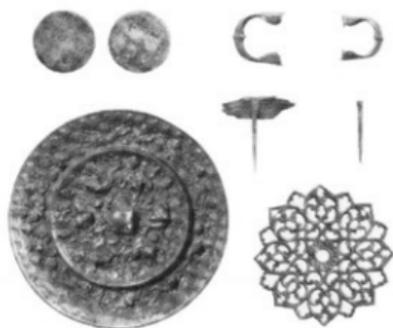


飛鳥資料館全景



石人像（重要文化財）

飛鳥時代の庭園に使われた噴水



高松塚から出土した飾金具と鏡（重要文化財）

入館者数

（単位 人）

区分		年度			
		昭和57年度	昭和58年度	昭和59年度	
有料観覧	普通観覧	一般	48,222	46,244	49,503
		高・大学生	15,786	15,483	14,697
		小・中学生	13,675	16,180	16,805
	団体観覧	一般	27,483	29,863	24,506
		高・大学生	31,429	30,111	27,569
		小・中学生	60,658	66,463	67,915
計		197,253	204,344	200,995	
無料観覧		10,826	10,595	10,072	
合計		208,079	214,939	211,067	

埋蔵文化財センター

埋蔵文化財に関する調査研究及び関連技術の開発ならびにその結果の公表を行うとともに、埋蔵文化財の調査、保存整理に関し、地方公共団体等の求めに応じ、専門的、技術的な指導・助言を、また埋蔵文化財に関する情報資料の作成、収集、整理、保管並びに調査研究を行い、これらについても広く地方公共団体等の利用に供している。

さらに、埋蔵文化財の調査、保存整理に関し、地方公共団体の職員等に対し技術的な研修を行っており、研修の主な課程は次のとおりであり、昭和59年度までの受講者累計は1,890名である。

区 分	課 程	区 分	課 程
一般研修	一般課程	専門研修	環境考古課程
専門研修	遺跡測量課程	“	埋蔵文化財情報課程
“	中近世遺跡調査課程	特別研修	石器調査課程
“	遺跡保存整備課程	“	縄紋施設法調査課程
“	保存科学課程	“	埋蔵文化財基礎課程
“	発掘調査関連技術課程		



研 修 風 景



情報処理機器 埋蔵文化財関係資料の
情報処理を行う。



P.E.G.含浸装置 ポリエチレングリコールを
使用し、木材、木器等を永
久保存するための処理装置



写真測量図化機 ステレオメトログラフE型を
使用して実測図を作成する。

普及活動

(1) 公開講演会

調査研究の結果を一般に公表する一端として毎年春と秋に行っており、最近の講演は次のとおりである。

講演回数	演 題	講演回数	演 題
第53回 (58.5.21)	7世紀における同范軒瓦について	第55回 (59.5.19)	中世直民の食器類 年輪から年代を読む
第54回 (58.11.19)	飛鳥の氏寺—山田寺を中心に— 古代庭園の植栽について	第56回 (59.11.17)	古代仏殿のイメージ—金堂の原型をもとめて— 日本古代の冠帽

(2) 現地説明会

発掘調査を行った現地を一般に公開し、調査研究の成果を公表している。

発掘調査場	発掘調査場所	発掘調査場所
58. 6.18 平城宮跡149次	59. 5.26 平城宮跡第155次	
7. 2 平城宮跡第150次	6.23 藤原宮跡第41次	
7.16 山田寺跡東回廊発掘調査現地見学会	8.25 平城宮跡第157次	
9.10 平城宮跡第152次	10. 6 平城京左京八条一坊三・六坪	
10.15 石神遺跡	10.13 山田寺跡(第6次)東回廊	
11.12 藤原宮跡第37次	12. 1 石神遺跡第4次	
12.24 平城宮跡第153次	12. 8 平城宮跡第161次	
59.1.26~27 称徳天皇山荘広平地発掘調査現地見学会	60. 2.16 藤原宮跡第44次	
3.24 平城宮跡第154次	3. 9 平城宮跡第163次	

(3) 刊 行 物

イ、学 報

年度	名 称	年度	名 称
1954	第1冊 仏師運慶の研究	1974	第23冊 平城宮発掘調査報告VI
	第2冊 修学院院宮の復元的研究	第24冊 高山町並調査報告一	
1955	第3冊 文化史論叢	1975	第25冊 平城京左京三条二坊
1956	第4冊 奈良時代僧房の研究	第26冊 平城宮発掘調査報告VII	
1957	第5冊 飛鳥寺発掘調査報告	第27冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告I	
1958	第6冊 中世庭園文化史	第28冊 研究論集III	
	第7冊 興福寺食堂発掘調査報告	第29冊 木曾余良井一町並調査報告一	
1950	第8冊 文化史論叢II	1976	第30冊 五条一町並調査報告一
	第9冊 川原寺発掘調査報告	1977	第31冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告II
1960	第10冊 平城宮跡・広飛鳥板蓋宮跡発掘調査報告	第32冊 研究論集IV	
1961	第11冊 院家建築の研究	第33冊 イタリア中部の山岳村落における民家調査報告	
1962	第12冊 巧匠安阿弥陀仏袂慶	第34冊 平城宮発掘調査報告IX	
	第13冊 嵯峨造系庭園の立地的考察	1978	第35冊 研究論集V
	第14冊 唐招提寺庭「レース」と「金輪命利塔」に関する研究	第36冊 平城宮整備調査報告I	
1963	第15冊 平城宮発掘調査報告II	1979	第37冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告III
	第16冊 平城宮発掘調査報告III	第38冊 研究論集VI	
1965	第17冊 平城宮発掘調査報告IV	1980	第39冊 平城宮発掘調査報告X
	第18冊 小堀遠州の作事	1981	第40冊 平城宮発掘調査報告XI
1967	第19冊 藤原氏の氏寺とその院家	1984	第41冊 研究論集VII
1969	第20冊 名物梨の成立	第42冊 平城宮発掘調査報告II	
1971	第21冊 研究論集I	第43冊 日本における近世民家(農家)の系統的発展	
1973	第22冊 研究論集II		

口、史料

年度	名	称	年度	名	称
1964	第1冊	南無阿彌陀仏作善集(複製)	1978	第14冊	日本美術院彫刻等修理記録V
1965	第2冊	西大寺敬傳伝記集成	1978	第15冊	東大寺文書目録第一巻
1963	第3冊	仁和寺史料 寺誌編一	1979	第16冊	日本美術院彫刻等修理記録VI
1964	第4冊	俊業坊所原史料集成	第17冊	平城宮木簡二 図版・解説	
1966	第5冊	平城宮木簡一 図版	第18冊	藤原宮木簡二 図版・解説	
1967	第6冊	仁和寺史料 寺誌編二	第19冊	東大寺文書目録第二巻	
1969	第7冊	平城宮木簡一 解説(別冊)	1980	第20冊	日本美術院彫刻等修理記録VII
1970	第7冊	唐招提寺史料一	第21冊	東大寺文書目録第二巻	
1974	第8冊	平城宮木簡二 図版・解説	1981	第22冊	七大寺巡礼札記
第9冊	日本美術院彫刻等修理記録I		第23冊	東大寺文書目録第四巻	
1975	第10冊	日本美術院彫刻等修理記録II	1982	第24冊	東大寺文書目録第五巻
1976	第11冊	日本美術院彫刻等修理記録III	第25冊	平城宮出土墨書土器集成I	
1977	第12冊	藤原宮木簡一 図版・解説	1983	第26冊	東大寺文書目録第六巻
第13冊	日本美術院彫刻等修理記録IV		1984	第27冊	木簡集成図録一 近畿古代圖一

ハ、飛鳥資料館図録

ニ、基準資料

年度	名	称	年度	名	称
1976	第1冊	飛鳥白鳳の在銘金銅仏	1973	第1冊	瓦編1 解説
第2冊	飛鳥白鳳の在銘金銅仏 銘文篇		1974	第2冊	瓦編2 解説
1977	第3冊	日本古代の墓誌	1975	第3冊	瓦編3
1978	第4冊	日本古代の墓誌 銘文篇	1976	第4冊	瓦編4
第5冊	古代の誕生仏		1977	第5冊	瓦編5
1979	第6冊	飛鳥時代の古墳—高松塚とその周辺	1978	第6冊	瓦編6
1980	第7冊	日本古代の鶏尾	1979	第7冊	瓦編7
1981	第8冊	山田寺展	1980	第8冊	瓦編8
1982	第9冊	高松塚拾年	1983	第9冊	瓦編9
1983	第10冊	渡来人の寺—権限寺と坂田寺—			
第11冊	飛鳥の水時計				
第12冊	小健甕の世界—埴輪から瓦塔まで—				
1984	第13冊	藤原宮—半世紀にわたる調査と研究—			

ホ、地 図 (大縮尺図、縮尺1:1,000、航空写真より図化)

区 分	園化面数	園 化 地 域
平城京地域	71	御熊、桑原、中山、外山、唐列、渋谷、赤井谷、秋篠寺、山陵、西畑、歌姫、コナベ、ウワナベ、黒髪山、佐保山、船着寺、野神、西大寺、平城宮(北)、法華寺、不退寺、佐保、法蓮、東大寺(北)、宝来、青原、尼ヶ辻、北新、田村、蔵ノ町、三条、興福寺、春日野、平松、唐招提寺、六条、柏木、八島田、大安寺(北)、京終、元興寺、紀寺、新薬師寺、大池、薬師寺、西ノ京、杏、八条、神泉、村塚、北古市、鹿野(北)、大蔵冠、西市、観音寺、羅城門、西九条、東九条、北永井、登坂、南郡山、郡山、野塚内、下三橋、上三橋、北ノ庄、今市、帯解
下ッ道地域	47	大略、若槻、美濃庄、井戸野、池田、蔵之江、富家、中城、桑志院、馬司、伊豆七条、南八条、中、宮堂、二階堂、西葛塚、森塚、庵治、溝壁、石見、唐古、八尾、健、田原本、散手、委之庄、南阪手、多、乾藤、新口、西内、上品寺、新賀、鴨田部、額田部(北)、穴間、長楽、保田、唐院、沢、大野、小御、大場、乙木(北)、佐保庄、竹之内
飛鳥藤原地域	43	木原、耳成山、常盤、西之宮、今井(北)、小房、鴨公、高殿北部、膳木、木殿、飛騨、高殿、香久山、池尻、久米寺、丈六、田中、笛、奥山、山田寺、鳥屋、益田池、見瀬、和州、豊浦、飛鳥寺、八約、越、野口、立部、橋寺、岡寺(北)、真行、檢前、上平田、祝戸、坂田、観音寺、栗原、大根田、東常門
計	161	

その他、編集図(縮尺1:2,000)

平城宮跡、藤原宮跡、藤原京(北)、五条野、飛鳥、石槻花、池田荘、小東庄、乙木庄

蔵書及び資料

蔵書

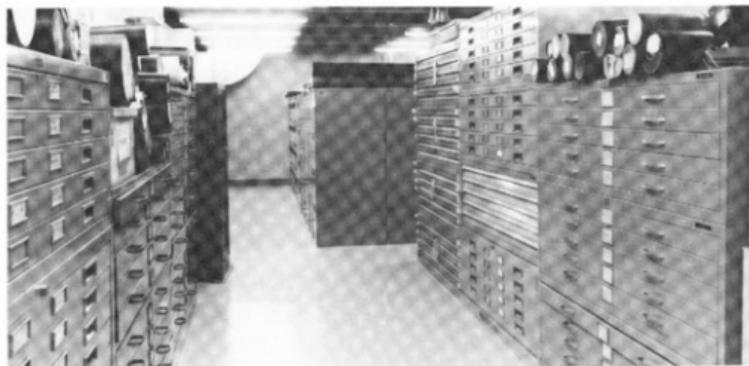
81,249冊（昭和60年3月15日現在）

区分	種別	購入	寄贈	計
59年度	和漢書	4,013	3,714	7,727
	洋書	769	35	804
累計	和漢書	38,974	36,654	75,628
	洋書	4,891	730	5,621

資料

275,697点（昭和60年3月15日現在）

区分	キャビネ	スライド	ライカー	ブローニー	ミニコピー	その他	計
59年度	4,802	5,581	3,162	2,903	106	0	16,554
累計	93,044	79,443	57,826	35,729	1,936	7,719	275,697



第三書庫 地図、実測図、拓本、航空写真ロールネガ
などを保管

飛鳥藤原京・平城京関係略年表

西 暦	年 号	事 項	西 暦	年 号	事 項
538		仏教伝来	711	4	大宮大寺焼失
588	崇峻 1	飛鳥寺を造り始める	716	聖徳 2	大安寺を移す
593	推古 1	推古天皇磯浦宮に即位	718	養老 2	薬師寺・元興寺を移す
601	9	聖徳太子斑鳩宮を造る	730	天平 2	薬師寺東塔建立
603	11	小墾田宮に遷る	739	11	法隆寺夢殿、伝法堂建立
606	14	坂田寺を造る	740	12	恭仁宮に遷る。平城宮人極殿等を運ぶ
607	15	法隆寺を造り始める	744	16	難波を都とする
630	舒明 2	飛鳥岡本宮に遷る	745	17	平城宮に遷る。法華寺を造る
636	8	飛鳥岡本宮焼失、田中宮に遷る	752	大平 勝宗 4	東大寺人仏開眼供養
639	11	百濟大寺を造り始める	755	7	平城宮改作
640	12	百濟宮に遷る	756	9	聖武天皇77忌に道品を東大寺等に納める
641	13	山田寺を造り始める			
642	草壁	小墾田宮に遷る	759	天平 宝字 3	唐招提寺を造る。平城宮東朝集殿を唐招提寺に納入
643	2	飛鳥板蓋宮に遷る	761	5	平城宮改作
645	大化 1	難波長柄豊碇宮に遷る			
653	白雉 4	中人兄皇子、草壁等と飛鳥河辺行宮に遷る	765	大平 神護 景雲 1	西大寺を造る
655	斉明 1	飛鳥板蓋宮焼失、飛鳥川原宮に遷る	767	1	西隆寺を造る。東院下殿完成
656	2	飛鳥岡本宮に遷る			
667	天智 6	近江大津宮に遷る	784	延暦 3	長岡京に遷る
672	天武 1	飛鳥浄御原宮に遷る	794	13	平安京に遷る
680	9	薬師寺を造り始める。橘寺尼房焼失	809	大同 4	平城上皇、平城宮に遷る
691	持統 5	藤原京を鎮祭する			
694	8	藤原宮に遷る	824	天長 1	平城上皇薨去
710	和銅 3	平城京に遷る。興福寺を造る			

(表紙紙写真) 鬼面文鬼瓦

平城宮の内裏西外郭から出土した鬼面の鬼瓦。高さ約40cmあり、平城宮で最も大の鬼瓦。天平年間に造営された内裏地域の建物の屋根を飾った。

奈良国立文化財研究所概要

発行日 昭和60年4月30日
発行 奈良国立文化財研究所

